

平成29年度第3回市民と市長の対話集会

市長と語ろう！

ほっとミーティング

テーマ ひらつかの「子育て・高齢福祉・安心安全」

開催結果報告書

- 1 開催日時 平成29年（2017年）7月26日（水）
午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 横内公民館 2階 集会室
- 3 参加者 6人 傍聴者 13人



ほっとミーティングの様子

4 市長あいさつ

皆さんこんばんは。本日はお忙しい中、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただき誠にありがとうございます。

ほっとミーティングは、地域の皆さんのお話を伺い、御意見や御提案を市政に反映することを目的とし、取り組んでいます。

御存じのとおり、全国規模で少子高齢化が進み、人口が減少しています。本市も例外ではなく、行政運営が継続できるかどうか厳しい時代を迎えています。本市では、平成22年11月の26万863人をピークに人口が減っている状況です。国からは、自治体が存続するため、それぞれの地域で抱えている課題を踏まえ、将来を見据えた戦略をたてるように、との指示がありました。

そこで、平塚市は今後目指すまちづくりの計画として、新たな総合計画「ひらつかNext」を策定しました。計画の重点施策を、「強みを活かしたしごとづくり」と「子どもを産み育てやすい環境づくり」、「高齢者がいきいきと暮らすまちづくり」、「安心・安全に暮らせるまちづくり」として、このほっとミーティングでは、「子育て・高齢福祉・安心安全」をテーマに、市民の皆さんから率直な御意見を伺って市政に反映したいと考えていますので、よろしく願います。

また、本日はできる限り私からお答えさせていただきますが、中にはこの場でお答えできないこともあるかと思えます。その際には、事務局から担当課への確認を行い、皆さんにお伝えさせていただきます。本日はよろしく願います。

5 主なミーティングの内容

①子育てについて

【参加者】

こどもの家に駐車場が無い場合、子育て支援の催しに、遠方からの親子が参加しづらいと感じます。駐車場の整備を検討できないでしょうか。こどもの家という立派な施設を有効的に使っていくためにも、そうした整備も考えていただきたい。

社会福祉協議会が毎年1回開催している未就園児の交流事業「あそびのもり」が予算の都合で、昨年度に廃止となりました。多くの親子の情報交換の場がなくなってしまう、多数の主任児童委員が残念に感じているところです。

横内のこども会も昨年度で廃止となっています。こども会は、こどもたちが地域で活動する基礎的な役割を果たしています。将来を支えるこどもたちの居場所作りは必要ではないでしょうか。

【市長】

市内には、こどもの家が4か所ありますが、駐車場はありません。整備の要望は把握していますので、近くに駐車場を整備できるかどうか、検討していきたいと思います。子育て中の親子の交流の場としては、つどいの広場もあります。こうした施設の充実だけでなく、多くの方が来てもらえるように、駐車場の整備も含めた、環境のより一層の充実を進めていく必要があると考えます。

未就園児の交流事業「あそびのもり」については、こういった経緯があつて廃止になったのか、予算上の問題であるのかどうか、調べさせていただきます。

こども会については、こどもたちが地域に溶け込むために大切な役割を果たしているものだと思います。ただ、こども会が少なくなっている理由の一つとして、役員を引き受け手が見つからない現状があります。平塚市青少年問題協議会でも、こども会のあり方について検討しているところです。課題に対して、解決策をすぐに提示できるわけではありませんが、青少年課に御意見があったことを伝えます。

こどもたちの居場所作りについては、横内地区では、学習支援やこども食堂等で御協力いただき感謝しています。地域の方々が、こどもたちにしっかりと目を配っていただいていると感じます。こどもたちの貧困については、子ども・子育て推進会議を立ち上げ、具体的な対策作りに取り組んでいます。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

こどもの家の駐車場の整備について

こどもの家は、地域で異年齢の子どもたちが放課後等に遊んだり、レクリエーションを楽しむことを目的に設置した施設ですので、来館者用の駐車場は設置していません。

今回、子育て支援の催しに遠方から参加する親子のためにと駐車場整備の御意見をいただいたところですが、こどもの家は、近隣地域の児童、生徒が、徒歩や自転車で来館することを想定して建物、遊具、駐輪場を配置しているため、敷地内の設置は難しく、また、敷地外につきましても経費の面から（設置は）難しい状況です。

子育て支援事業については、子育て支援センターや公民館等を会場に各地域でも実施されているものがありますので御利用いただきたいと思います。

（事務担当は青少年課青少年育成担当）

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

あそびの森の廃止について

平塚市社会福祉協議会に確認したところ、次のとおり回答を得ましたので報告します。

「あそびの森」は平塚市社会福祉協議会法人化30周年記念事業として平成16年度から中央公民館で開始し、平成21年度からは場所をひらつかアリーナに移して実施してきました。

事業の財源は県のともしび補助金を活用してきましたが、補助要件が見直され当該事業の経費として活用できなくなったこと、また、開催の準備や当日の運営に要する人員の確保が難しい状況になったことなどの理由により平成27年度をもって終了としました。

なお、本市では、未就学児の子育て支援の場として、豊田地区に「子育て支援センター」を開設しているほか、「親子であそぼうフェスティバル」などのイベントも開催しており、子育て支援の充実に努めています。

（事務担当は福祉総務課福祉総務担当、保育課子育て支援担当）

②高齡福祉について

【参加者】

65歳以上でも意欲や能力のある高齢者が多いと感じます。例えば、万歩計を市が希望者へ無償で貸与し、歩いた距離をポイント制にして、溜まったポイントを、何かに還元して、それを社会貢献（恵まれない国の子どもたちに教科書をわたす等）に活用するなどした制度は作れないか。

【参加者】

県営横内団地の住民の高齢化が顕著です。高齢化が進む一方、若い世代が転入しづらい環境であるため、将来的に団地がどうなるのか不安に感じます。高齢者を支える町内福祉村などもありますが、すべての方を支えることは難しいですから、団地内において、支えあう必要が出てくるのではないかと。市として、県に対し、街づくり全体に対して話し合いが出来る場を設けるなど、連携をとれるようにしてほしいです。

社会福祉協議会で、一人暮らしの高齢者を対象に、年1回、食事会を開催していますが、費用負担の関係もあり、場所の確保が難しいです。公共施設で開催するものについては、市で補助金を出すなどの対策はできないか。

【市長】

高齢化が進む中で、これからは多様な働き方が必要になります。年齢に関係なく、皆さんが元気に働ける社会が実現されることが求められています。万歩計の提案については、介護予防の観点からも有益だと思います。福祉部局に伝えます。ポイント制ということで関連するのですが、本市では、「ひらつか元気応援ポイント事業」という制度を実施しています。介護施設などで元気な高齢者が活動すると、活動の回数に応じて、ポイントを付与し、換金や地場産の加工品と交換することができます。今後は、交換できるものを社会貢献につながるような仕組みを作ることもいいかもしれません。万歩計の提案を含めて、検討していきたいと考えます。

横内団地の住人の高齢化の件ですが、住んでもらう人を増やす必要がありますので、施設の改修等も含めた対策を講じなければなりません。UR都市機構が管理している高村団地も、建て替えを進めていく方向だと聞いています。まずは、県に対して、現在の状況を伝え、実際にどこまでできるかどうかを話していければと思います。

食事会などを公共施設で開催するにあたっての補助金については、実際にどういった対応をすることができるのかどうか、考えさせていただければと思います。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

ひらつか元気応援ポイント事業及び万歩計の提案について

本市では、高齢者の見守りと健康増進につなげるため、見守りセンサー等多機能付き「お話し見守り歩数計（ひらつかミルック）」の貸し出し事業を行っています。

その「お話し見守り歩数計（ひらつかミルック）」事業では、歩数を距離に換算し、江戸から京都までの地図上の仮想の旅・「東海道五十三次ウォーキング」に参加することができ、到達した位置（宿場）の情報が利用者へハガキで届くなど、楽しみながら健康増進に取り組める工夫が施されています。本事業を利用していただくことにより、利用者の介護予防につなげていきます。

また、ひらつか元気応援ポイント事業は、65歳以上の方を対象として会員登録した元気応援ポイント会員が、介護保険施設等で行った活動の実績に応じて交付金や地場産農水産物等の詰め合わせセットを受け取れる制度です。本事業は、活動を通じて社会参加、地域貢献をすることを本市が支援し、活動する方自身の介護予防を「応援」とともに、「元気」高齢者が増え、地域が「元気」になることを目的としています。

御提案のポイントを社会貢献に活用すること等については、現在、「平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔第7期〕）平成30年度～平成32年度」の策定に向け検討していますので、これらの事業の見直しを行う中で参考とさせていただきます。

（事務担当は高齢福祉課高齢福祉担当、地域包括ケア推進課介護予防担当）

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

社会福祉協議会の開催する食事会について

福祉会館は市内に3館あり、ひとり暮らし高齢者食事会などの会場として御利用いただけます。居室や団体送迎バスも無料で御利用いただけますので、新たな費用負担が発生することなく、当該食事会などの開催はできるものと考えています。福祉会館を御利用くださるようお願いいたします。

なお、施設の所在地等は下記のとおりです。

【福祉会館】

電 話：33-2333

所 在 地：追分1-43

利用時間：午前9時～午後9時（老人福祉センターは午後4時まで）

休 館 日：日曜日、祝日、年末年始

【南部福社会館】

電 話：21-3370

所 在 地：袖ヶ浜20-1

利用時間：午前9時～午後9時（老人福祉センターは午後4時まで）

休 館 日：日曜日、祝日、年末年始

【西部福社会館】

電 話：50-5525

所 在 地：公所868

利用時間：午前9時～午後9時（老人福祉センターは午後4時まで）

休館日：毎月第3日曜日・年末年始

（事務担当は福祉総務課福祉総務担当）

③安心安全について

【参加者】

地震が発生し、家が倒壊したとき、避難場所は小学校や中学校、公民館でよいのかどうかを伺いたい。また、地震で起きる津波に対する対策も確認したい。それと、平塚市では公民館が統廃合される予定があるのかどうか。横内公民館の建て直しの予定があるのかどうかを聞きたい。

【参加者】

平塚駅北口前にある喫煙場所について、設置場所が適切であるのか気になります。駅前には市の顔であり、イメージを損なうのではないのでしょうか。バスを待つ人たちに対して、たばこの煙が流れてしまうことも問題だと考えます。

以前、古河電工（株）の工場で火災が発生し、黒煙が周囲に広がったことがありました。危険物や化学薬品を扱っている工場もあり、市として企業の危機管理をどう考えているのか聞きたい。また、消防の初動対応に問題はないのかどうか聞きたい。

【参加者】

横内地区の防犯街路灯は、182灯すべてのLED化が完了しました。しかし、横内商店街から自治会に移管された25灯は、まだLED化が完了していません。撤去をしたうえで、新設する際には補助が出ると聞きましたが、撤去費用は自己負担しなければなりません。市で助成することはできないか。

【参加者】

災害が発生したとき、円滑な避難をしていくためにも、避難行動要支援者を対象とした避難訓練を実施するのがいいと思います。

社会福祉協議会や自治会、消防やボランティアなど、災害対策に従事する支援者同士で情報交換の機会を設けたらよいのではないのでしょうか。

【市長】

災害が発生し、大きな被害を受けた場合、市内には、避難所として、小中学校など55か所あります。すぐにそうした施設へ行けない場合には、近くにある公共施設に一時的に退避するなど、地域に応じた柔軟な対応も必要だと思います。

津波対策については、東海道本線より南側の地域で、78か所の津波避難ビルを指定しています。緊急時には、津波避難ビルに退避し安全を確保することができます。また、競輪場の耐震化を実施し、メインスタンドの上部に避難することが可能になりました。防災倉庫として備蓄もしており、拠点としての機能も期待できます。相模川の右岸の堤防工事も完成しており、今後、津波の遡上の可能性が低くなったと考えています。災害は想定外も含め準備する必要があります。引き続き、避難場所の確保等を進めていきます。

公民館の統廃合は考えていません。各小学校区それぞれに公民館を設置しているというのは、全国的にも珍しいと思います。地域の拠点、生涯学習の場として、有効活用していただきたいです。建て替えについては、老朽化が進んでいますから、古いものから順次、進めているところです。横内公民館についても、他の公民館の状況をみながら、建て替えを進めていく予定です。

駅周辺の指定喫煙場所は、JT（日本たばこ産業株式会社）の協力をいただき、北口、西口及びまちかど広場に設置しています。駅周辺では、平塚市さわやかで清潔なまちづくり条例により、路上喫煙を禁止とし、分煙を進めているところです。北口については、場所を変更してほしいとの意見も寄せられており、課題として認識していますので、検討していきたいと思います。

古河電工の火災ですが、化学火災ではないと消防より報告を受けています。化学火災であれば、それに対応した化学消防車を出す必要があります。煙についても、有害なものではないと報告を受けています。企業の危機管理については、各企業でも、自衛消防を組織したり、危険物安全協会などに入り初期対応などの情報を共有しています。

火災などの通報があると、出動時間等の報告を受けており、迅速な対応をしています。初期対応や人員体制、装備品関係においても、十分な体制をとっています。

防犯街路灯のLED化について、商店街の25灯も対象にするのは、事業と

しても難しいと思います。実際には、撤去費用がかかるため、どのような形で自治会に負担が少なくなるかという点については、考えていく必要があると思います。

避難行動要支援者に対しての避難訓練については、防災部署に伝えたいと思います。東日本大震災でも、訓練の実施の有無によって、円滑な避難ができたかどうかが変わっていましたので、訓練の重要性は把握しているところです。支援を要する避難行動要支援者は約4,000人で、支援が可能である人は約1,300人と聞いています。このミスマッチについては、地域と連携しながら、解決を図っていく必要があると考えています。

小中学校などの避難所において、市の職員を中心とした避難所運営委員会が組織しており、最低でも年に1回は、マニュアル等の見直し作業を、各地域の方々と進めています。こうした集まりの中で、実のある情報交換を進めていけるようにする必要があります。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

商店街の防犯街路灯について

横内商店街の防犯街路灯については、横内連合自治会との協議により、LED防犯街路灯を本市が新設した後に、自治会で撤去することで合意しています。

商店街灯の電線の撤去は、8月に東京電力に依頼しており、その後の灯具の撤去については、自治会で行っていただくこととなります。

（事務担当は危機管理課危機管理担当）

6 市長によるまとめ

本日は皆さん、率直な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

横内にお住いの皆さんは、子どもたちへの支援を含めて、地域づくりに熱心に取り組んでいただいていると思います。改めて、御礼申し上げます。

課題につきましては、担当部署より具体的なお答えが出来るものについては、報告書としてまとめさせていただき、お答えできればと思います。

一番大切なことは、地域にお住いの皆さんが、地域の課題を真摯に捉えて、自分たちで解決できること、市と連携して解決できることをしっかり判断し、進めていくことだと考えます。

本日は、ありがとうございました。

アンケート結果報告

【アンケート回答数 13件】

問1 市長の説明や市長との対話はいかがでしたか。

よかった	8人
まあよかった	5人
どちらともいえない	0人
あまりよくなかった	0人
よくなかった	0人
回答なし	0人

問2 本日の「ほっとミーティング」のご感想について。

- ・大変参考になりました。
- ・良い勉強になりました。
- ・市長は、一つ一つの質問に細かく答えていて良かった。
- ・テーマを分けて整理した分かりやすいミーティングだった。
- ・いろいろ知らなかったことがわかり、有意義なミーティングでした。
- ・直接市長に話が出来たのは良かったです。続けていただきたい。
- ・市民の生活視点が様々であると改めて感じました。
- ・地域で街づくりについて話し合う機会の必要性を感じました。
- ・テーマが多くて、細かいところまでは話が出来なかった。全体としては非常に良かった。
- ・自己紹介は簡単にしたほうがよい。
- ・テーマを当日に発表すると、市長も知らないことが出てくるので、事前にテーマを提出して検討したほうがよいと思う。
- ・具現化できる内容に取りまとめをお願いします。